

2014年10月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時
2014年10月4日(土) 10:00~16:00

2. 開催場所
中部品質管理協会

3. 参加者<50音順、敬称略>出：出席、欠：欠席、書：書記、休：休会

井上	出	伊藤	出	梅本	出	大見	書	奥田	出	杉浦	出	則尾	出	林(p)	出
林(二)	出	牧野	出	山口	出	横尾	出	和田	出			池田	休	森	休

4. T法から導いた実験式によるパラメータ 牧野
製造データから、T法を使用して、ロバスト設計する方法について、ステップ毎の説明を実施して紹介した。ステップは、約10段階あり、簡単なものとしては、品質特性を推定のみ実施する方法と、内側直交表に割り付けた制御因子の誤差を、外側直交表に割り付ける直積実験がある。今回、両方のやり方について実施した。

5. SN比はなぜ対数をとるのか？（次回）

6. プランジャ型ソレノイド機能について 山口
推力の目標値が吸引面間距離にかかわらず長い距離にわたって一定の場合、従来の標準SN比で解析すると、2次係数(β_2)が求まらず目標値へ合せ込みができないという課題があった。
この課題に対応すべく、今回“合せ込みのSN比”による解析を試みた。解析方法の詳細は割愛するが、この方法を用いることにより特性値(推力)をロバストネスの成分、2次係数に相当するフラット性の成分、および感度(β)の成分に分解することができ、要因効果図を作成することで検討目的に合わせた設計条件の抽出が可能になる。

7. 新製品開発 則尾 杉浦
QFDの流れに沿って①~④の検討を実施
①市場定義/顧客層定義：乗り物、家庭、自分自身の3つの用途を対象
②顧客の生の声(VOC)：ターゲット層が欲しい機能と欲しくない機能を①の3グループに分かれ抽出
③VOCの整理：使用シーン分析/親和図法による整理
④要求品質への変換：シーン事に1次→2次→3次
⑤品質機能の抽出：対象と機能 次回(杉浦さん)
⑥要求品質と品質機能の関連付け：マトリックス表を使って◎強い対応、○対応、△弱い対応を表記 次回

8. 商社の機能について 横尾 和田
QFDの流れに沿って①~④の検討を実施
①市場定義/顧客層定義：ユーザー⇒商社像、メーカー⇒商社像が対象
②顧客の生の声(VOC)：ターゲット層が欲しい機能と欲しくない機能を①の3グループに分かれ抽出
③VOCの整理：使用シーン分析/親和図法による整理
④要求品質への変換：シーン事に1次→2次→3次

9. 輪講について 大見
「ロバスト設計のための機能性評価」の輪講を11月からスタートする。
各章の担当者は大見の方で決定し、会員に連絡する。

10. 合宿研究会 大見
来年(15年)2月7日(土) - 8日(日) トヨタの蒲郡のセイラス蒲郡で宿泊合宿を行うことに決定。

11. 次回案内
・日時：2014年11月1日(土)
・場所：(有) アイテックインターナショナル
・検討テーマ(案)
①新製品開発の進め方(QFDによる進め方)
②新規事業について(QFDに基づく新規事業発掘)
③SN比はなぜ対数をとるのか
④アンケート結果の解析方法
⑤輪講：ロバスト設計のための機能性評価
⑥合宿研究会について
⑦テーマ当番：奥田

以上